

76 27

W
S
K

76-37

76-37

40

76
37

秋

司法警察訓則草案

百六拾八號一

自第一編
至第四編

59

司法警察訓則目錄

第一編 總則

第一章 司法警察ノ要領

第二章 司法警察官ノ構成

第三章 司法警察官ノ職務

第二編 搜查權

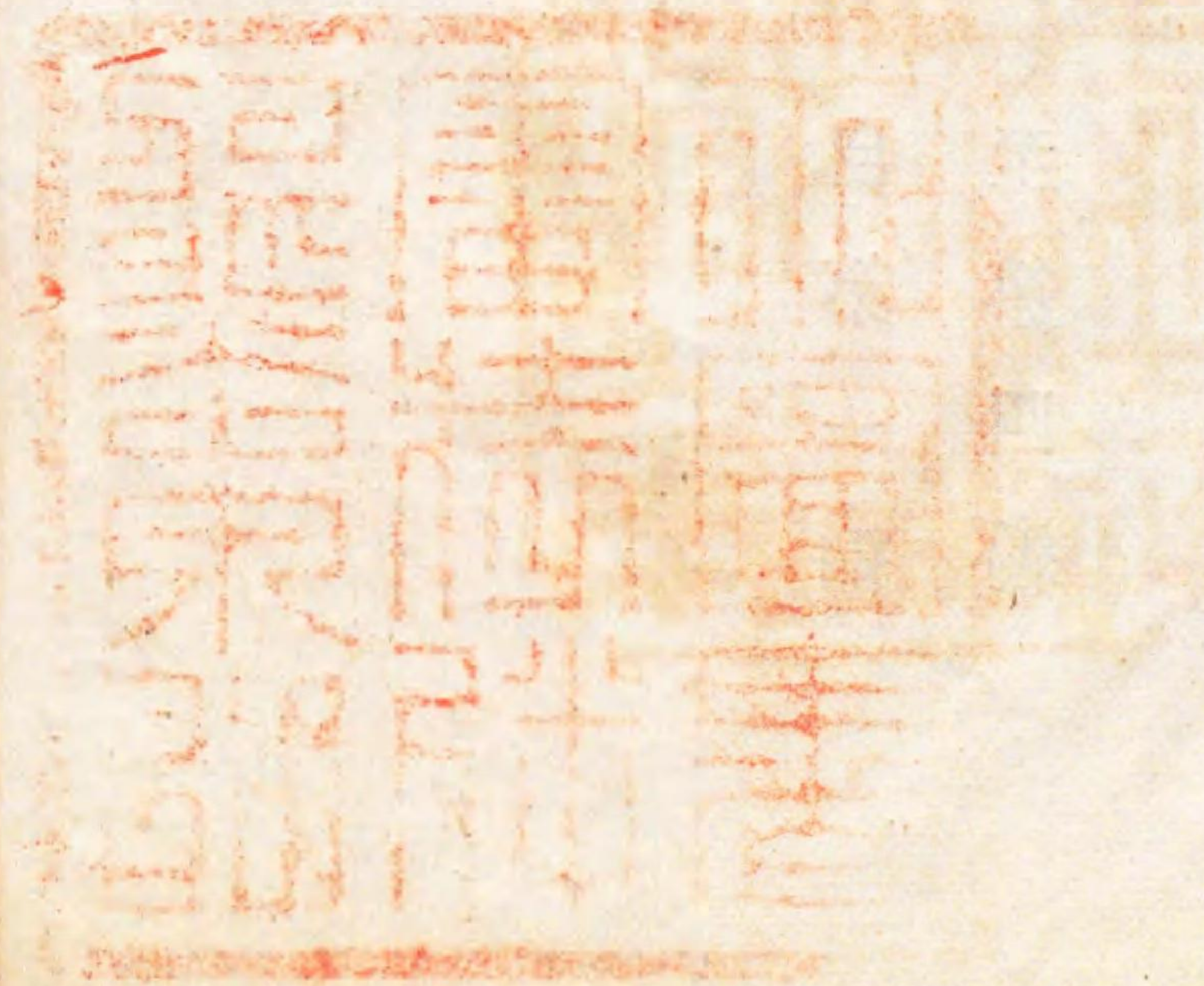
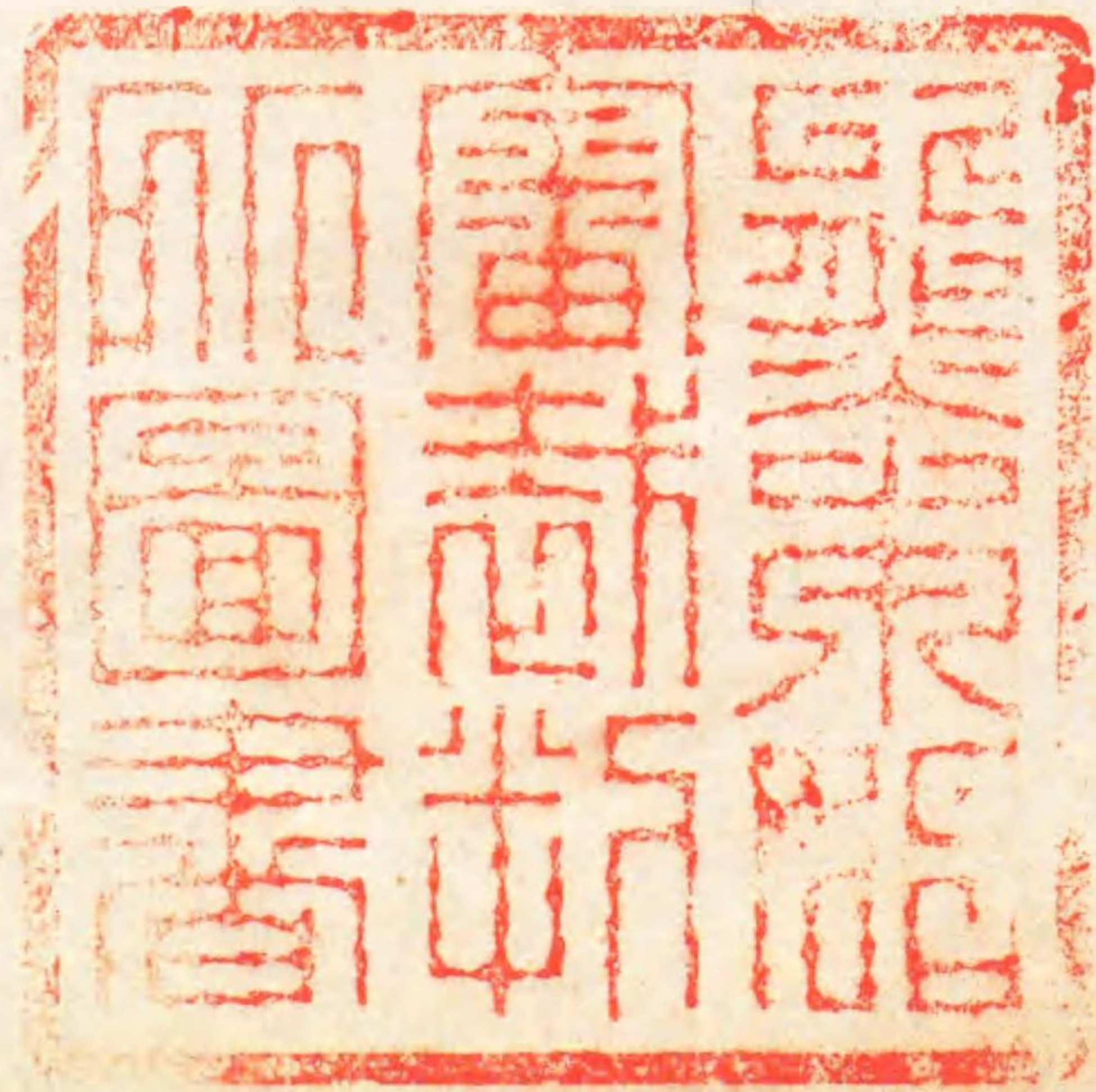
第一章 搜查權ノ起因

第一節 犯罪成立

第二節 未遂犯罪

第三節 數人共犯

第四節 不論罪及七刑ノ全免



司法警察訓則目錄

第一編 總則

第一章 司法警察ノ要領

第二章 司法警察官ノ構成

第三章 司法警察官ノ職務

第二編 搜查權

第一章 搜查權ノ起因

第一節 犯罪成立

第二節 未遂犯罪

第三節 數人共犯

第四節 不論罪及七刑ノ全免



第二章 搜查權ノ停止

第三章 搜查權ノ消滅

第一節 被告人ノ死亡

第二節 告訴ノ棄權私和

第三節 確定裁判

第四節 刑ノ廢止

第五節 大赦

第六節 公訴ノ期滿免除

第三編 搜查着手

第一章 搜查着手ノ原由

第一節 告訴及ヒ告發

第二節 現行犯

第三節 特種ノ發見

第二章 搜查着手ノ心得

第四編 搜查處分

第一章 証憑及ヒ犯人ノ搜查

第二章 被告事件交付

第五編 假豫審 (審査中)

司法警察訓則

第一編 總則

第一章 司法警察ノ要領

第一條 司法警察ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ搜查シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ニ供スルヲ目的トス

第二條 司法警察ハ晝夜ノ差別ナク之ヲ行フ可キモノトス

第三條 司法警察ノ處分ハ迅速ナラサル可カラス事機ニ應シテ證據ヲ完備スルヲ要ス

第四條 司法警察ノ處分ハ緻密ナラサル可カラス細大ノ事物ニ注目シテ證據ヲ符合セシムルヲ要ス

第五條 司法警察ノ處分ハ秘密ナラサル可カラズ嚴ニ機務ノ漏泄ヲ

防キ犯人逃走罪證湮滅ノ弊ナカラシメ且成ル可ク被告人其他ノ者
ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第六條 司法警察ノ處分ハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寬ナラサル可カラ
ス小事ハ成ル可ク告訴人ノ證明ニ任ス可シ

又濫ニ一家ノ隱微ヲ訐クコトナキヲ要ス

第七條 司法警察ノ權ハ特別ノ場合ヲ除クノ外身體拘束家宅進入物
件差押ニ及ホスコトヲ得ス

第二章 司法警察官ノ構成

第八條 司法警察權ハ司法卿ノ統轄ニ屬ス

第九條 控訴裁判所檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ
職務ヲ行フ者ヲ監督ス

又其管轄地内ニ於テ自ラ司法警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事
ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

又司法警察ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢事ニ告達シ又ハ時宜ニ因
リ直ニ司法警察官ニ指揮スルコトアル可シ

參照

○治罪法第六十七條

第十條 輕罪裁判所檢事ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ職
務ヲ行ヒ及ヒ其補佐トシテ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ指揮ス

支廳檢事ハ本廳檢事ノ指揮ヲ受ケ其管轄地内ニ於テ本廳檢事ト同
一ノ職務ヲ行フ

第十一條 左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ各

其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

一 警視警部

二 憲兵將校下士

三 區長郡長

四 治安判事

五 第一項第二項ノ官吏在ラサル地ノ戸長

第一項第二項ノ官吏ハ專務ニシテ第三項以下ノ官吏ハ專務ニ非サル者トス

專務ニ非サル官吏ハ成ル可ク其職務ヲ專務ノ官吏ニ讓ル可シ

參照

○治罪法第六十條

○明治十四年太政官第十一號達憲兵條例

第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事東京府知事ヲ除ク縣令東京府知事ヲ除ク并ニ各裁判所檢事ヨリ指示ヲ受クル時ハ直ニ其事ニ從フ可シ

○明治十五年

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

第十二條 警視總監府知事東京府知事ヲ除ク縣令ハ各其管轄地内ニ於テ司法

警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ト同一ノ權ヲ有ス但國事犯其他重大ナル事件アル場合ニ限り其職務ヲ行フヲ例トス

參照

○治罪法第六十條

第十三條 豫審判事ハ直ニ告訴告發ヲ受ケタル事件ニ付キ其裁判所
管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ但急速ヲ要セサル事件ハ成
ル可ク檢事ニ讓ル可シ

參照

○治罪法第九十三條第九十七條

第十四條 空知樺戸集治監典獄ハ各監獄所在地ニ於テ其管理スル囚
人及ヒ假出獄免幽閉ノ者ノ犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十五年第十六號布告

樺戸集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ
治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○明治十五年第四拾壹號布告

空知集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ
治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條 小笠原島出張東京府官吏ハ其島内ニ於テ司法警察ノ職務
ヲ行フ

參照

○明治十四年第五拾六號布告

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ違警裁判所始審裁判所即チ輕罪
裁判所
ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明

治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十六條 伊豆七島地役人ハ其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行

フ

参照

○明治十四年第五拾七號布告

伊豆七島裁判事務當分該島吏ヘ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十七條 清國朝鮮國在留檢事ハ各其在留地ニ於テ日本國人ノ犯罪

ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第十八條 商船ノ船長ハ商船内ノ犯罪ニ付キ明治十四年第六十五號布告ニ從ヒ司法警察ノ職務ヲ行フ

参照

○明治十四年第六十五號布告商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ

損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

第十九條 司法警察官他ノ管轄地内ニ於テ搜查ヲ爲ス可キ時ハ之ヲ其地ノ司法警察官ニ囑托ス可シ

參照

○治罪法第六十一條

第二十條 司法警察官ノ管轄ハ犯罪ノ性質場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルヲナシ

第三章 司法警察官ノ職務

第二十一條 司法警察官ノ職務左ノ如シ

- 一 犯罪ノ搜查
- 二 現行犯ノ假豫審
- 三 被告事件ノ交付

第二十二條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ其職務ヲ行フコトヲ得ヘキ者ナルヲ以テ急速ヲ要スル場合ニ於テハ成ル可ク其處分ヲ爲サ、ル可カラス

第二十三條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テハ司法警察官タルノ證據ヲ携帯ス可シ若シ其處分ヲ受クル者ノ請求アル時ハ之ヲ示ス可シ

第二十四條 司法警察官ハ專ラ公害ヲ除キ奸惡ヲ摘發スルコトニ着眼

ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡
スモノト爲ス可カラス

第二十五條 奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ル者ニシテ無智ノ
細民知ラスシテ法律ニ觸ル、ノ比ニ非ス司法警察官タル者宜ク其
犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第二十六條 司法警察官ハ搜查ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キ
ハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪ア
ルニ當テハ直ニ搜查ニ着手セサル可カラス

第二十七條 檢事ト司法警察官トハ職權ニ差等アリト雖モ其關係密
着シテ事務ヲ料理ス可キモノナルニ因リ互ニ協和ヲ旨トス可シ

第二十八條 司法警察官ハ管轄内外ニ拘ラス執務ノ便益ヲ圖ル爲メ

平常互ニ氣脈ヲ通ス可シ

第二十九條 司法警察官ハ租稅官吏其他當該官吏管掌スル事件ノ犯
則ニ付キ其處分ヲ爲スニハ成ル可ク當該官吏ノ檢舉ヲ待ツ可シ

第三十條 司法警察官被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナル時ハ
嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ官吏ニ讓ル可シ

第三十一條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要ナリトスル時ハ警察
署憲兵屯營ニ照會シテ巡查憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナ
ル時ハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

若シ事緊急重要ニ涉ル時ハ鎮臺又ハ營所分營ニ照會シテ兵力ヲ要
求スルコトヲ得其要求書ニハ成ル可ク犯罪ノ性質被告人ノ員數所在
地及ヒ其携帯スル兇器ノ種類等ヲ記載ス可シ

参照

○明治十四年太政官第八拾貳號達

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得

第三十二條 兵力ヲ要求シタル司法警察官ハ直接ニ兵卒ヲ指揮スルコトヲ得スト雖モ處分ノ方法ニ付キ指揮官ニ協議スルコトヲ得

第三十三條 謀故殺放火強盜其他重罪輕罪ヲ分タス重要ナル事件ア

リタル時ハ司法警察官ハ速ニ其旨ヲ檢事ニ報告ス可シ

第三十四條 刑法第二篇第一章第二章及ヒ第三章第一節ノ犯罪アリタル時ハ司法警察官ハ速ニ檢事ニ報告シ檢事ハ之ヲ司法卿ニ具狀ス可シ

第三十五條 勅奏任官華族帶勳有位者重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ司法警察官ハ速ニ檢事ニ報告シ檢事ハ成規ニ從ヒ其手續ヲ爲ス可シ

参照

○明治十五年司法省丙第十一號達

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

(別紙)明治十五年三月二十二日達

勅任官禁錮ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ

該ル可キ罪ヲ犯シタルハ當該檢官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルコトヲ得此旨相達候事

○明治十六年司法省丙第二號達

勅奏官華族並有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通太政官へ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ト可相心得事

(別紙)勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑

ニ該ル可キ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年二月二十二日付ヲ以テ御達有之

候處其罰金ニ處ヌ可キモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留

ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ其換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處ヌ可

キ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ

處ヌ可キトキハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年五月八日指令

伺ノ通

但十五年三月二十二日付其省へ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以

上ヲ指シタル儀ト可相心得事

○明治十六年司法省丁第三十二號達

華族ノ輩位記ノ有無且戸主隱罪ヲ犯シ拘留シタルハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮

内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ謄本ヲ添へ是亦同様速ニ可致

通牒此旨相達候事

○明治十六年太政官第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續

76-37

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルハ亦之ヲ申告スヘシ

第三十六條 外國人重罪輕罪ヲ犯シ又ハ外國人ニ對シ重罪輕罪ヲ犯シタル者アル時ハ檢事司法警察官ハ第三十四條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十七條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年第二百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

參照

○明治七年太政官第二百二十八號達司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ

其家族並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車

馬迄モ同様ナリト思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相

違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館へ同道シ右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内へハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカ
ラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内へ匿入セシ等毫髪ノ間モ
猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索
スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一
切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ
打合セ而シテ其處分ヲナスヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ并犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員アル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル
罪ヲ公使館外ニテ現ニ行ヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確証アリ
テ片時モ猶豫ナシカタキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刺公使館へ報知ノ上同館へ引
渡シ又外務省へ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛ノ事ア
ル可カラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刺公使館へ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受
クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現
ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルモ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務
省へ報知シ同館へ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取リテ后之レヲ捕縛ス
可シ若シ館主之ヲ拒ムモ其旨ヲ猶外務省へ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二編 搜查權

第一章 搜查權ノ起因

第三十八條 搜查權ハ犯罪ニ先チ又ハ犯罪ニ後レテ生スルモノニ非
ス犯罪ト同時ニ生スルモノナルニ因リ其起因ヲ知ルニハ犯罪ノ成
立不成立ヲ鑑別スルヲ必要トス

第三十九條 犯罪ノ成立不成立ハ容易ニ鑑別ス可キモノト否ラサル
モノトアリ故ニ犯罪アリト思料ス可キ事件ニ付テハ勉メテ其取調
ヲ爲ス可シ犯罪ノ成立ヲ確認ス可カラサルノ故ヲ以テ初メヨリ之
ヲ忽カセニスルコヲ得ス

第一節 犯罪成立

第四十條 犯罪成立ニ關スル一般ノ條件左ノ如シ

一自由 他ノ抑壓ヲ受ケス事ノ行否自己ノ意ニ隨フヲ謂フ

二辨別 普通ノ知覺精神ヲ有シ事ノ是非ヲ識別スルヲ謂フ

三故意 法律規則ノ禁令アルコトヲ知ルト知ラサルトヲ分タス罪ト

爲ル可キ事實ヲ知リテ之ヲ行ヒ若クハ行ハサルノ意アル

ヲ謂フ

第四十一條 前條ニ記載シタル條件ハ犯罪成立ニ必要ナリト雖モ諸

罰則違警罪及ヒ過失罪ニ付テハ法律ノ特例又ハ犯罪ノ性質ニ因リ

條件ノ具備ヲ要セサルモノアリ

第四十二條 犯罪成立ニ關スル一般ノ條件ノ外各罪固有ノ原素二箇

又ハ三箇以上ヲ具備スルヲ要ス例ヘハ詐欺取財ノ罪ニ付テハ欺罔

收受及ヒ他人ノ財物ノ三原素ヲ要スル如キ是ナリ

第四十三條 犯罪ノ原素具備シタル時ヲ以テ犯罪成立ノ期ト爲スト

雖モ其原素ハ必シモ同時ニ具備スルヲ要セス

第二節 未遂犯罪

第四十四條 法律ニ於テハ總テ已遂犯罪ニ付キ刑名ヲ定メタルモノ

ニシテ其犯罪ノ原素タル可キ事實ニ着手スルモ意外ノ障礙若クハ

舛錯ニ因リ行ヒ遂ケサル時ハ未遂犯罪トス

第四十五條 未遂犯罪ハ法律上罰スルト罰セサルトノ區別アリ

一重罪ノ未遂犯ハ總テ之ヲ罰ス

二輕罪ノ未遂犯ハ法律ニ明文アルニ非サレハ之ヲ罰スルコトナシ其

明文アルモノ左ノ如シ

一内亂ニ關スル罪

- 一 囚徒逃走ノ罪
- 一 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造スル罪
- 一 往來通信ヲ妨害スル罪
- 一 官印ヲ偽造スル罪
- 一 私印私書ヲ偽造スル罪
- 一 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
- 一 竊盜ノ罪
- 一 詐欺取財ノ罪
- 一 電信條例第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ノ罪
- 一 海底電信線保護萬國聯合條約罰則第一條ノ罪
- 三 違警罪ノ未遂犯ハ總テ之ヲ罰セス

第四十六條 犯罪ニ着手スト雖モ事理ニ於テ其目的ヲ遂ケ得ヘカラサルモノハ不能犯ニシテ未遂犯ト爲スコカラス

不能犯ハ法律上之ヲ罰セスト雖モ其所爲ニ因リ別罪ヲ構成スルコトアリ例ヘハ人ヲ毒殺セントシタルニ其藥質人ヲ殺スニ足ラサルモ爲メニ其人ノ健康ヲ害スルニ至リタルノ類是ナリ

第四十七條 犯罪ニ着手スト雖モ自ラ其事ヲ中止シタル時ハ之ヲ遂ケサルノ原由障礙舛錯ニ非サルヲ以テ亦未遂犯ト爲スコカラス

犯罪ヲ中止シタル場合ハ法律上之ヲ罰セスト雖モ中止前ノ所爲ノミニ因リ別罪ヲ構成スルコトアリ例ヘハ竊盜ヲ爲サントシテ人ノ邸宅ニ入リ自ラ其事ヲ中止シタル時ハ人ノ住所ヲ侵スノ罪アルノ類是ナリ

第四十八條 犯罪着手前ノ所爲ハ法律上之ヲ罰セス但内亂外患ニ關

スル罪貨幣ヲ偽造スル罪等ニ付キ陰謀豫備ヲ罰スルハ例外トス

第三節 數人共犯

第四十九條 數人共犯ニ三様アリ二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯ス者人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシムル者及ヒ人ノ罪ヲ犯スコトヲ知り豫備ノ所爲ヲ以テ幫助スル者はナリ現ニ罪ヲ犯ス者及ヒ犯罪ヲ教唆スル者ハ正犯トシ犯罪ヲ幫助スル者ハ從犯トス

第五十條 教唆者及ヒ從犯ヲ罰スルハ重罪輕罪ニ止リ違警罪ニ於テハ之ヲ罰セス

第五十一條 二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯ス時ハ情ノ輕重所行ノ異同ニ拘ラス各自同一ノ罪アルモノトス

第五十二條 二人以上合同シテ現ニ罪ヲ犯スノ際其一人又ハ數人臨

時他罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ他ノ犯人ニ及ホス可キモノニ非ス然レモ本罪ニ關係シタル事件ニシテ他ノ犯人ノ豫知シタル時ハ其罪ヲ免カル、トヲ得ス

第五十三條 二人以上合同シテ罪ヲ犯シタル時其一人又ハ數人幼年若クハ知覺精神ノ喪失等ニ因リ減免ヲ得ルト雖モ他ノ犯人ハ其利益ヲ得ヘキモノニ非ス

第五十四條 教唆者ノ罪ハ脅迫贈與威權結約其他被教唆者ヲシテ犯罪ノ意ヲ決定セシムルニ足ル可キ方法ヲ用ヒ且被教唆者其事ヲ實行スルニ因テ成立ス
若シ被教唆者ノ犯シタル罪全ク異質ニシテ教唆ヨリ出タルモノニ非サル時ハ教唆者ノ罪成立セス

第五十五條 從犯ハ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシムル者ニシテ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スル等ノ別アリト雖モ其所爲ハ毎ニ犯罪着手ノ前ニ在リ若シ犯罪ノ當時直接ニ幫助スル者ハ即チ正犯ニシテ從犯ト爲スコカラス

第五十六條 從犯ノ罪ハ正犯ノ罪ト同時ニ成立ス故ニ正犯現ニ其事ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ罪ト爲ラサル時ハ從犯亦罪ナシトス但正犯ノ身分ニ因リ不論罪ト爲ル場合ハ此限ニ在ラス

第五十七條 犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示スト雖モ正犯其器具ヲ使用セス又ハ其誘導指示ニ從ハサル時ハ正犯ノ罪成立スルモ從犯ノ罪成立セス

正犯其器具ヲ使用シ又ハ其誘導指示ニ從フト雖モ全ク異質ノ罪ヲ

犯シ從犯其事實ヲ豫知セサル時亦同シ

第五十八條 共犯罪一般ノ成立ハ前數條ニ記載シタル如シト雖モ酒造稅則煙草稅則ノ如キ收稅ニ關スル罰例及ヒ古物商取締條例質屋取締條例ノ如キ營業取締ニ關スル罰例ニ於テハ止タ其營業者ヲ罰シ爆發物取締罰則新聞紙條例集會條例ノ如キ治安ニ關スル罰例ニ於テハ共犯ノ區域ヲ擴メ又ハ特定ノ者ノミヲ罰スル等ノ特例アリ其他諸罰則ニ於テハ共犯ノ特例アルモノ多シ

第四節 不論罪及ヒ刑ノ全免

第五十九條 不論罪トハ外形上犯罪タル可キノ所爲アリト雖モ法律上之ヲ罪トセサルモノヲ謂ヒ刑ノ全免トハ犯罪已ニ成立スト雖モ法律上特ニ定メタル事由ノ爲メ全ク其刑ヲ免スルモノヲ謂フ

不論罪及ヒ刑ノ全免ヲ得ヘキモノハ公訴ノ目的ナキニ因リ其事實明瞭ナルニ於テハ搜查ヲ爲ス可キモノニ非ス但不論罪ニシテ懲治場ニ留置ス可キモノハ此限ニ在ラス

第六十條 不論罪ニ二種アリ各種ノ犯罪ニ適用ス可キモノヲ一般ノ不論罪ト謂ヒ特種ノ犯罪ニ適用ス可キモノヲ特別ノ不論罪ト謂フ

第六十一條 一般ノ不論罪ハ左ノ如シ

- 一 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非スシテ爲シタル者
- 二 天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル者

三 法律又ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者

四 罪ヲ犯ス意ナキ者但法律規則ニ於テ特例アルモノヲ除ク

五 罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラサル者

六 知覺精神ヲ喪失シタル者

七 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿タサル者

八 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿タスシテ是非ヲ辨別セサル者但違警罪ヲ除ク

九 瘖啞者

第六十二條 前條ニ記載シタル者ハ一般ニ其罪ヲ論セスト雖モ酒造稅則煙草稅則証券印稅規則等ノ諸罰例ニ於テハ全ク不論罪ノ例ヲ適用セス又ハ其一部ヲ適用セサルモノアリ

第六十三條 特別ノ不論罪ハ左ノ如シ

- 一 自己又ハ他人ノ身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ

暴行人ヲ殺傷シタル者但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ヲ除ク

二財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

三盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

四夜間故ナク邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者

五犯罪人ノ親屬ニシテ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者

六祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ竊盜

ノ罪遺失物埋藏物ニ關スル罪詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪ヲ犯シタル者

第六十四條 刑ヲ全免ス可キ場合ハ左ノ如シ

一貨幣偽造變造ノ情ヲ知り雇ヲ受ケタル職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者其貨幣行使前ニ於テ自首シタル時

二偽証又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時

三誣告ヲ爲シタル者被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ自首シタル時

四地租條例ニ違犯シタル者自首シタル時

五米商會所規則ニ違犯シタル者自首シタル時

六富籤賣買ニ關スル犯罪者自首シタル時但沒收ス可キ物件アル場合ヲ除ク

第二章 搜查權ノ停止

第六十五條 搜查權ハ犯罪ノ成立ニ起因スルモノニシテ被害者ノ告訴アルト否トニ關係スルコトナシ然レモ人ノ内行若クハ名譽ニ關シ其事ヲ摘發スルニ於テハ却テ害ヲ被害者ニ加フルノミナラス爲メニ一般ノ風俗ヲ敗ルノ恐アルモノアリ又ハ其害ノ有無被害者ニ非サレハ之ヲ鑒別スルコト能ハス隨テ其犯罪ノ成立セシヤ否ヲ確知スルコトヲ得サルモノアリ故ニ此種ノ犯罪ニ付テハ法律規則ニ於テ特例ヲ設ケ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツ可キモノト定メタルニ因リ其告訴アルマテ搜查處分ヲ停止セサル可カラス

第六十六條 左ニ記載シタル事件ハ被害者ノ告訴ヲ要ス但第九項以下ノ事件ニ付テハ其親屬亦告訴ヲ爲スコトヲ得

- 一 有夫姦ノ罪但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル時ハ告訴ノ效ナシ
- 二 誹毀ノ罪但死者ヲ誹毀スル罪ニ付テハ其親屬ノ告訴ヲ要ス
- 三 他人ノ所有ニ屬スル牛馬以外ノ家畜ヲ殺ス罪
- 四 公然人ヲ罵詈嘲弄スル罪
- 五 他人ノ寫眞版權ヲ侵ス罪
- 六 他人ノ商標ヲ冒ス罪
- 七 他人ノ專賣權ヲ侵ス罪
- 八 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ正誤ノ請求ニ應セサル罪
- 九 脅迫ノ罪

十幼者ヲ畧取誘拐スル罪但幼者式ニ從テ婚姻シタル時ハ告訴ノ效
ナシ又幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付スル罪ハ告訴ヲ要スル
ノ限ニ在ラス

十一猥褻姦淫ノ罪但人ヲ死傷ニ致シタル時ハ告訴ヲ要スルノ限ニ
在ラス

第六十七條 被害者ノ告訴ヲ要スル事件ト雖モ本人無能力ナル時ハ
法律ニ定メタル代人ヨリ告訴ヲ爲スモ其效アリトス

法律上ノ代人ト雖モ有夫姦ノ罪ニ付テハ本夫白痴瘋癲ナル場合ノ
外告訴ノ權ナシ

又財産管理人ハ財産ニ對スル犯罪ノ外告訴ノ權ナシ

參照

○明治十四年第七十三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通
無能力者

- 一未丁年者
 - 二妻タル者
 - 三白痴瘋癲者
 - 四治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一未丁年者ノ父母若クハ母又ハ親屬後見人
 - 二夫タル者
 - 三白痴瘋癲人ノ保管人

76-37

四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二 夫タル者

三 白痴瘋癲人ノ保管人

四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

第六十八條 親屬ノ告訴ハ被害者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナルヲ以テ被害者ノ意思ニ反スル告訴ハ其效ナシ

第六十九條 親屬ノ告訴ハ被害者ノ近親ニシテ其身上ニ威權ヲ有スル者ヨリ之ヲ爲ス可キモノトス

第三章 搜查權ノ消滅

第七十條 搜查權ハ公訴權ト其起因ヲ同クスルノミナラス亦同一ノ原由ニ因テ消滅ス故ニ其消滅ハ治罪法第九條ニ記載シタル公訴權消滅ノ場合ト差異ナキモノトス

第七十一條 搜查權消滅シタル時ハ搜查ニ着手ス可カラス既ニ着手シタル場合ニ於テハ之ヲ繼續ス可カラス故ニ搜查權ノ起因ニ注意スルト同時ニ其消滅ノ原由ニ注意ス可シ

第一節 被告人ノ死去

七十二條 刑ハ其人ニ止リテ他人ニ及ハス故ニ被告人死去スル時ハ公訴權消滅スルヲ以テ其搜查權亦消滅ス

七十三條 數人共犯ノ場合ニ於テハ被告人死去スル者アリト雖モ

他ノ正犯從犯ニ付テハ搜查權消滅スルモノニ非ス

第二節 告訴ノ棄權私和

第七十四條 告訴ノ棄權私和ニ因リ搜查權消滅スルモ第六十六條ニ記載シタル事件ニ限ルモノニシテ其他ノ事件ニ付テハ棄權私和アリト雖モ搜查權消滅スルモノニ非ス

第七十五條 告訴ノ棄權私和ハ其事件ノ裁判確定ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコヲ得

第七十六條 法律ニ定メタル代人ハ告訴ヲ爲スコヲ得ヘキ事件ニ付テハ其棄權私和ヲ爲スコヲ得

親屬ハ被害者ノ意思ニ反シ棄權私和ヲ爲スコヲ得ス

第七十七條 告訴ノ棄權私和ハ被告事件ノ全部ニ係ルモノナルヲ以テ數人共犯ノ場合ニ於テ其一人ニ對シ棄權私和ヲ爲シタル時ハ他ノ被告人亦其利益ヲ受クルモノトス

第三節 確定裁判

第七十八條 確定裁判ヲ經タル事件ハ被告人ノ利益ノ爲メ非常上告再審ノ訴アリタル場合ノ外罪名ノ變更アルモ再理ス可カラサルニ因リ其搜查權亦消滅ス

第七十九條 確定裁判トハ上訴期限ヲ經過シ又ハ上訴ヲ經盡シテ復タ之ヲ動カス可カラサルモノヲ謂フ故ニ裁判ヲ經ルト雖モ上訴期限内及ヒ上訴中ニ於テハ搜查權消滅セス

第八十條 確定裁判ニ因テ搜查權ノ消滅スルハ公判本案ノ言渡及ヒ豫審免訴ノ言渡ニ限ルモノトス

第八十一條 確定裁判ノ效ハ其裁判ヲ受ケタル者ニ止リ其他ノ者ニ及ハス故ニ共犯人中既ニ確定裁判ヲ經タル者アリト雖モ他ノ犯人ニ付テハ搜查權消滅セス

第四節 刑ノ廢止

第八十二條 法律ハ既往ニ溯ラスト雖モ所犯頒布以前ニ在ルモノハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス故ニ舊法刑名アルモノニシテ新法之ヲ廢止スル時ハ新法ニ從ヒ不問ニ付ス可キモノナルニ因リ其搜查權亦消滅ス

第八十三條 刑ノ廢止ハ新法ニ於テ之ヲ明示スルモノアリ之ヲ明示セサルモ新法ニ抵觸スルニ因リ廢止ト爲ルモノアリ法律ヲ改正シ舊法中明文アルモノヲ除キタルカ爲メ廢止ト爲ルモノアリ其方

法一様ナラスト雖モ搜查權ノ消滅スルハ同一ナリトス

第五節 大赦

第八十四條 大赦ハ特赦ノ如ク刑ヲ免スルニ非ス罪ヲ消滅セシムルノ恩典ナリ故ニ大赦ヲ經タル事件ニ付テハ搜查權消滅ス

第八十五條 大赦ハ發令前ノ犯罪ニ限り發令後ノ犯罪ニ及フ可キモノニ非ス

第六節 公訴ノ期滿免除

第八十六條 總テ犯罪ハ歲月ノ經過ニ因リ消滅ニ屬ス可キモノトス即チ重罪ハ十年輕罪ハ三年違警罪ハ六月ニシテ公訴ノ期滿免除ヲ得ヘキニ因リ其期限ヲ經過スル時ハ搜查權消滅ス

第八十七條 期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ種類ニ因リ規定シタルモノナ

ルヲ以テ從犯未遂犯其他減輕シタルモノヲ以テ本刑ト爲ス可キ場合ノ外重罪ノ刑ヲ減シテ輕罪ノ刑ニ處シ輕罪ノ刑ヲ減シテ違警罪ノ刑ニ處ス可キモノト雖モ其期限ハ仍ホ各本罪ノ種類ニ從フ

第八十八條 期滿免除ノ期限ハ即時犯ニ付テハ犯罪ノ日ヨリ起算シ繼續犯ニ付テハ最終ノ日ヨリ起算シ連續犯ニ付テハ一罪毎ニ犯罪ノ日ヨリ起算ス

第八十九條 即時犯トハ其罪即時ニ終成スルヲ謂ヒ繼續犯トハ同一ノ罪ニシテ多少ノ時日其所爲繼續スルヲ謂ヒ連續犯トハ其意思繼續シテ數次同一ノ罪ヲ犯スヲ謂フ

第九十條 期滿免除ハ公訴ノ提起及ヒ實行ニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス故ニ起訴及ヒ豫審公判ノ手續アリタル時ハ其期限ヲ經過スト

雖モ期滿免除ヲ得ヘカラス但管轄違以外ノ原由ニ因リ其手續ノ無效ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス

第九十一條 期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル場合ニ於テハ其處分以前及ヒ處分中ノ日數ハ期滿免除ノ期限ニ算入スルヲ得ス若シ其處分ヲ止メタル時ハ更ニ其日ヨリ期滿免除ノ期限ヲ起算ス
期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スト雖モ犯罪ノ日ヨリ起算シテ通常期限ノ二倍ヲ經過スル時ハ期滿免除ヲ得但中斷シテ其處分ヲ繼續スル場合ハ此限ニ在ラス

第九十二條 中斷ノ効ハ被告事件ノ全部ニ及フモノナルヲ以テ共犯人中一人又ハ數人ニ對シ中斷ノ處分ヲ爲シタル時ハ未タ發覺セサル正犯從犯ト雖モ期滿免除ヲ得ヘカラス

第三編 捜査着手

第一章 捜査着手ノ原由

第九十三條 捜査ハ適法ノ原由即チ告訴告發現行犯自首新聞風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第九十四條 適法ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知思料シタル場合ニ非スシテ捜査ニ着手スルハ公安ヲ妨ケ人ノ名譽ヲ害スル等ノ弊アルヲ以テ妄ニ犯罪アル可シト豫想シ隱密探偵等ヲ爲ス可カラス

第一節 告訴及ヒ告發

第九十五條 告訴ハ被害者ノ親告ニシテ告發ハ被害者ニ非サル者ノ申告ナリ其名異リト雖モ共ニ犯罪アリタルコトヲ當該官ニ申告スル

モノナルニ付キ告訴ト稱ス可キヲ告發ト稱シ告發ト稱ス可キヲ告
訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ其申告ヲ受ケ宜ク其實ニ從
テ處分ス可シ

第九十六條 告訴告發ハ如何ナル事件ト雖モ却下ス可キモノニ非ス
然レモ法律規則ニ違犯ノ廉ナシト思料シ且其申立ノ罪名輕微ナル
時ハ本人ニ示諭シテ取下ヲ爲サシムルコトヲ得若シ承認セサル時ハ
之ヲ受付シテ相當ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス

第九十七條 書面ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明
瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思料スル時ハ宜ク其
取調ヲ爲ス可シ

第九十八條 口述ヲ以テ告訴告發ヲ爲シタル時ハ隨意ニ其事件ヲ陳

述セシメ調書ヲ作り本人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ

第九十九條 告訴告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタル時ハ本人ヲシ
テ書面ヲ差出サシメ又ハ其陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺
印ス可シ

第一百條 前二條ノ場合ニ於テ本人署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨
ヲ調書ニ附記ス可シ但氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印セシムルモ妨
ケナシ

第一百一條 告訴告發ヲ受クル時ハ成ル可ク犯罪ノ性質方法日時場所
被告人證人ノ住所氏名其他証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立
シム可シ

第一百二條 被告人ヲ指名シテ告訴告發ヲ爲シタル時ハ本人ト被告人

トノ關係如何ヲ熟察シ其誣罔ニ出ルコトナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第一百三條 告訴ヲ受ケタル證書ハ告訴人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ渡スニ及ハス

第一百四條 代人ノ告訴告發ニ係ル時ハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律ニ定メタル代人告訴ヲ爲ス時ハ此限ニ在ラス

第一百五條 告訴告發ノ願下アルモ其書面ハ却下スルモノニ非ス更ニ本人ノ署名捺印シタル願下申立書ヲ差出サシム可シ

口述ヲ以テ願下ヲ爲ス時ハ其申立ヲ錄取シ本人ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ第百條ノ例ニ從フ可シ

第百六條 官吏職務上ノ告發ハ其署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル場合ニ於テハ郵便電信又ハ口述ノ告發ヲ受クルモ妨ケナシ

第百七條 告訴ヲ受ク可キ管轄官吏左ノ如シ

一 重罪輕罪ニ付テハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢

事司法警察官

二 違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官司法警察官

第百八條 告發ヲ受ク可キ管轄官吏左ノ如シ

一 重罪輕罪ニ付テハ告發人所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ豫審判事檢

事司法警察官

二 重罪輕罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事

三違警罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官司法警察官

第九條 重罪輕罪ニ付キ官吏職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ司法警察官之ヲ受ケ然ル後其事件ヲ檢事ニ送致スルヲ得

第十條 豫審判事告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ但治罪法第一百四條以下ノ場合ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スハ格別ナリトス

第十一條 司法警察官告訴告發ヲ受ケタル時ハ搜查ヲ爲シ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ但陸海軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル時ハ管轄法衙ノ檢察官又ハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第十二條 檢事告訴告發ヲ受ケ又ハ豫審判事司法警察官ヨリ其送

致ヲ受ケタル時ハ事件ノ模様ニ因リ搜查ニ着手スルト否トヲ定ム可シ但陸海軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル時ハ前條但書ノ手續ニ從フ可シ
第十三條 檢事告訴告發ヲ受ケ起訴ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ控訴裁判所檢事長ニ於テ更ニ其告訴告發ヲ受ケ相當ノ處分ヲ爲スヲ得

第二節 現行犯

第十四條 現行犯ハ罪ト爲ル可キ所爲又ハ其犯人ヲ認メ得ヘキ有形上ノ模様アルモノニシテ特別處分ノ制限トス

第十五條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

現ニ行フ際トハ罪ト爲ル可キ所爲ノ繼續スル時間ヲ謂ヒ現ニ行ヒ終リタル際トハ罪ト爲ル可キ所爲ヲ止メタル當時又ハ之ヲ止メタ

ルヨリ些少ノ時間ヲ經過スルモ其痕跡現存シテ犯狀ヲ認ムルニ容易ナル時間ヲ謂フ

發覺トハ犯人ノ誰タルコヲ知ラスト雖モ當該官ニ於テ其事件ヲ覺知シテ處分ニ着手シ又ハ常人ノヲ覺知シテ當該官ノ處分ニ供スルヲ謂フ

第七十六條 重罪輕罪ニ付テハ現行犯ニ准ス可キモノアリ其場合左ノ如シ

一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時此場合ニ於テハ犯人トシテ追呼スル者及ヒ追呼セラレテ遁逃スル者アルヲ要ス然レモ犯罪者タルコヲ詰ルニ當リ直ニ遁逃スル時ハ別ニ追呼者アルヲ要セス

二 兇器贓物其他犯罪ニ關スル物件ヲ携帶シ犯人ト思料ス可キ時
三家宅内ノ犯罪ニシテ戸主又ハ戸主ニ代ル可キ者ヨリ其檢証又ハ其家宅内ニ在ル被告人逮捕ノ處分ヲ當該官ニ請求シタル時

第七十七條 前條ニ記載シタル場合ノ外犯人ト思料ス可キ舉動アル時ハ亦現行犯ニ准スルコヲ得此場合ニ於テハ專ラ當該官ノ思料ニ任スト雖モ充分ナル因由徵憑ナカル可カラス

參照

○明治十四年第四拾六號布告第三項

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルコヲ得

第三節 特種ノ發見

第一百十八條 告訴告發現行犯ノ外自首新聞風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知思料スルヲ特種ノ發見トス

第一百十九條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免カレシムル爲メ自ラ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜ク其虚實及ヒ盡不盡ヲ視察ス可シ

第一百二十條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アル時ハ其出所原因等ヲ取調ヘ其虚實ヲ視察ス可シ

第一百二十一條 變死創傷及ヒ隱藏物件等ヲ發見シタル時ハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ヲ視察ス可シ

第二章 捜査着手ノ心得

第一百二十二條 犯罪アレハ必ス捜査權アリ然レモ其實行ニ至テハ事ノ輕重ニ因リ寬嚴其度ニ適セサル可カラス故ニ犯罪アルコトヲ認知思料スル時ハ先ツ其全體ヲ通觀シ其關係ヲ熟察シテ事實適當ノ處分ヲ爲ス可シ

第一百二十三條 人ノ内行ニ關シ若クハ親屬間ニ生スル犯罪又ハ輕微ナル犯罪ニシテ其害一般ニ及ハサル場合ニ於テ一概ニ之ヲ檢舉スル時ハ却テ安寧風俗ヲ害スルコトアルニ因リ其土俗民情等ヲ熟察シ捜査權ヲ實行スルト否トヲ定ム可シ

第一百二十四條 刑法第二編第一章ニ記載シタル犯罪ハ固ヨリ之ヲ嚴罰セサル可カラズ然レモ其事實ヲ精査セス濫ニ之ヲ檢舉スルハ却テ法律ノ趣旨ニ反ス故ニ捜査着手前充分ノ注意ヲ爲シ決シテ輕忽

ノ處分ヲ爲ス可カラス

第二百二十五條 刑法第二編第二章ニ記載シタル犯罪ハ機先ヲ察知シテ其陰謀又ハ豫備中ニ防制スルヲ要ス然レモ其陰謀ニ係ルモノ、如キハ証憑ヲ得ル極メテ難シ若シ捜査ニ着手シテ証憑ヲ得サル時ハ却テ不良ノ結果ヲ生スルニ因リ輕忽ニ人ノ身體財産ニ對スル處分ヲ爲ス可カラス

第二百二十六條 官吏ノ犯罪ハ固ヨリ寬假ス可キモノニ非ス然レモ捜査處分其當ヲ得サル時ハ施政上妨害ヲ生スルコトアルヲ以テ被告人官等ノ高下事件ノ大小ヲ問ハス充分ノ注意ヲ爲ス可シ

第二百二十七條 外國人ノ犯罪ハ其處分ノ當否ニ因リ重大ノ關係ヲ生スルコトアルヲ以テ事件ノ大小ヲ問ハス失誤ナキコトヲ勉メサル可カ

ヲス

第四編 搜查處分

第二百二十八條 搜查處分ハ犯罪ノ原由性質方法情狀日時場所被害ノ形狀多寡被告人ノ氏名年齢職業住所身分品行前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルヲ其他証憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

第二百二十九條 搜查處分ハ公力ヲ以テ執行ス可キモノニ非ス故ニ家宅ヲ搜索シ物件ヲ差押ヘ又ハ被告人証人ヲ引致スルハ特別ノ場合ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第二百三十條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯ト雖モ其事件ノ模様ニ因リ假豫審ノ處分ヲ必要トセル場合ニ於テハ搜查處分ヲ以テ其取調ヲ爲ス可シ

第三百一十一條 搜查處分ハ本編ニ記載シタルモノ、外第五編ニ定メ

タル手續ヲ准用スルコトヲ得但其手續特ニ豫審處分ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第一章 証憑及ヒ犯人ノ搜查

第三百二十二條 犯罪ノ場所又ハ証憑物件所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但人ノ邸宅内ニ係ル時ハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第三百二十三條 犯罪ノ事實ヲ証明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾アル時ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第三百二十四條 官署内ニ於テ前二條ノ處分ヲ爲サントスル時ハ其長官ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第三百二十五條 現行犯ト非現行犯トヲ問ハス又臨檢シタル場合ト否

トニ拘ラス搜查上必要トスル時ハ証人鑑定人及ヒ被告人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ取調ヲ爲スコトヲ得

第三百二十六條 呼出ヲ爲スニハ報知書ヲ用フ可シ但時宜ニ因リ巡查憲兵卒又ハ小使等ヲシテ口達セシムルモ妨ケナシ

第三百二十七條 報知書ハ巡查憲兵卒又ハ小使等ヲシテ送致セシメ若クハ郵便ヲ以テ送致ス可シ

第三百二十八條 証人ヲ取調フルニハ宣誓ヲ用ヒス其陳述ハ之ヲ錄取シ一件書類ニ添置ク可シ但事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アル時ハ手續書若クハ始末書ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第三百二十九條 鑑定ヲ爲サシムルニハ亦宣誓ヲ用ヒス其結果ハ鑑定書ニ記載シ之ヲ差出サシム可シ

第四百十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スヲ能ハサル
 場合ニ於テ其物件重要ナル証憑ト爲ル可キモノナル時ハ捜査上鑑
 定ヲ爲サシム可カラス但腐敗其他ノ原由ニ因リ其物件ヲ保存ス可
 カラサル時ハ此限ニ在ラス

第四百十一條 捜査上被告人ヲ取調フルト得ルト雖モ輕忽ニ着手
 スル時ハ人ノ名譽ヲ毀損シ又ハ被告人逃走証憑湮滅ヲ招クノ恐ア
 リ宜ク犯罪ノ種類被告人ノ身分及ヒ情狀等ヲ斟酌ス可シ

第四百十二條 被告人ノ誰タルトヲ知り得サル場合ニ於テ之ヲ搜索
 スルノ方法ハ固ヨリ豫定シ難シト雖モ犯罪ノ方法遺留ノ物件等ニ
 因リ先ツ其所爲ノ巧拙被告人ノ職業及ヒ其員數等ヲ鑑別スルヲ緊
 要トス

第四百十三條 前條ニ記載シタルノ外新聞風説其他古物商質屋兩替
 屋旅籠屋飲食店貸坐敷等ニ於テ被告人發見ノ端緒ヲ得ルト少カラ
 ス宜ク注意ス可シ

第二章 被告事件交付

第四百十四條 犯罪捜査ハ成ル可ク事件ノ大體ニ注意シ其要領ヲ得
 タル時ハ左ノ各條ニ從ヒ被告事件交付ノ手續ヲ爲ス可シ但交付後
 ト雖モ仍ホ捜査ヲ爲ストヲ得

第四百十五條 豫審判事司法警察官重罪輕罪ノ捜査ヲ爲シタル時ハ
 速ニ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第四百十六條 檢事自ラ重罪輕罪ノ捜査ヲ爲シ又ハ豫審判事司法警
 察官ヨリ其送致ヲ受ケタル場合ニ於テハ治罪法第一百七條ニ從ヒ相

當ノ手續ヲ爲ス可シ

第四百十七條 違警罪ニ付テハ其搜查ヲ爲シタル者ヨリ直ニ管轄警察署ニ送致ス可シ

第四百十八條 陸海軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル時ハ其搜查ヲ爲シタル者ヨリ直ニ管轄法衙ノ檢察官又ハ被告人ノ所屬長ニ送致ス可シ但憲兵設置ノ地方ニ於テハ違警罪ニ限り憲兵屯所ニ送致ス可シ

第四百十九條 軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺シタル者又ハ歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺シタル者ハ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

其在官現役中又ハ召集中罪ヲ犯シ免官免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ同シ

參照

○陸軍治罪法第十八條

○海軍治罪法第十八條

第一百五十條 外國人ノ犯罪ニ付テハ其搜查ヲ爲シタル者ヨリ管轄領事廳所在ノ地ノ檢事ニ送致シ檢事ヨリ領事ニ其處分ヲ請求ス可シ但領事廳所在ノ地方ニ於テハ其搜查ヲ爲シタル者ヨリ直ニ其處分ヲ請求スルヲ得
朝鮮國人及ヒ條約未濟國人ノ犯罪ニ係ル時ハ第四百十五條以下ノ手續ニ從フ可シ

正誤

目錄第二葉三行目

亡ハ去ノ誤

本文第五葉四行目

明治十五年ノ下第貳拾三號布告ノ七字ヲ脱ス

全第三十五葉十一行目

米商會所云々ハ竊ニ米穀金銀貨株式及ヒ諸物品ノ限月賣買等ヲ爲シタル者自首シタル時ノ誤

全第四十二葉三行目

二モハハノ誤

全第六十三葉六行目

外
103

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '外' and '103' at the top.)

76-37

76
37

証人ノ二字八行

全全九行目

セノ下サノ一字ヲ脱ス

76-37

(为5, 6编共有)

76-37

No. B-450

表紙その下
アとコ入

司法警察訓則草案

自第一編 至第四編

| | |
|------|-----|
| 製本種別 | 上 綴 |
| 大きさ | A5 |
| コース | SP7 |

76-37

最高裁四

PF

76-37

最高裁判所図書館

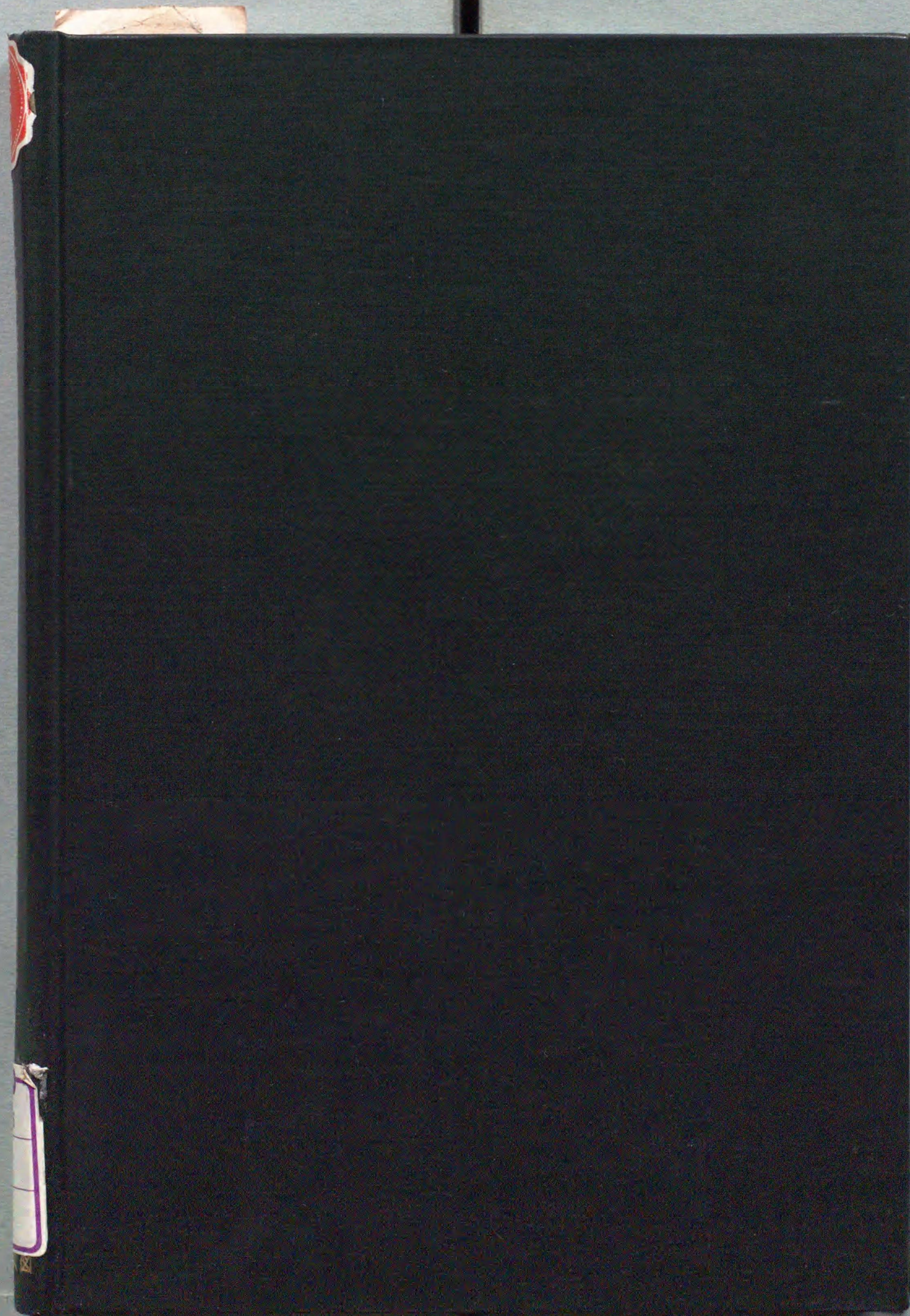


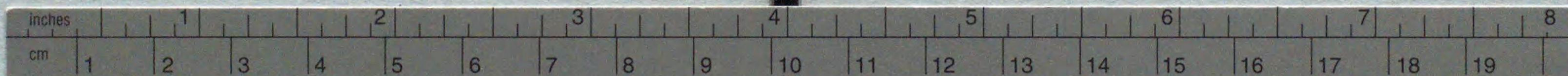
000128409

最高裁判所図書館



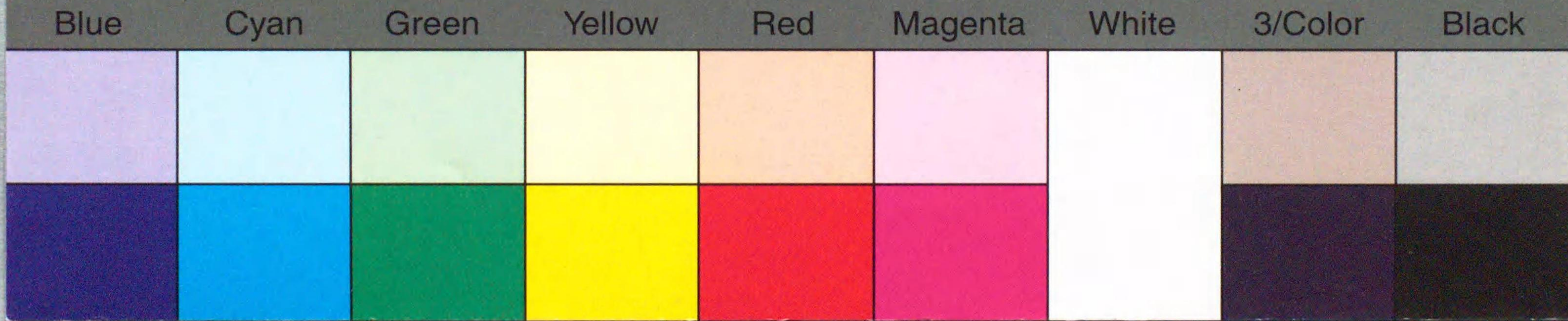
000128409





Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

